

**次期森林計画についての森林管理署の検討方向
(球磨川森林計画区)**

熊本南部森林管理署

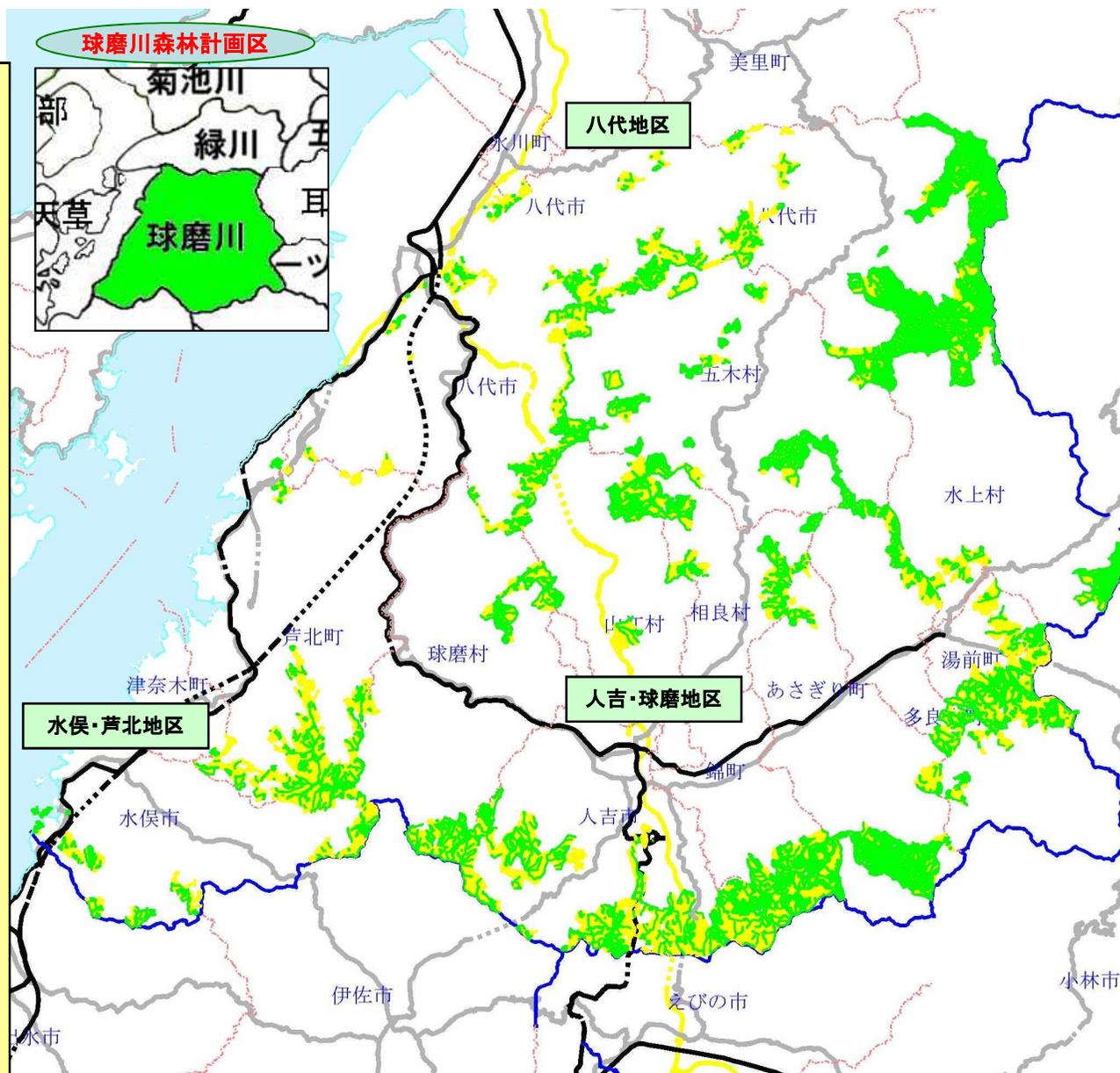
1. 現行計画の概要(平成30年4月1日～令和5年3月31日)

(1) 森林計画区の概要

・球磨川森林計画の対象は、熊本県南部に位置し、八代市、人吉市、水俣市、八代郡、葦北郡及び球磨郡の3市7町5村からなり国有林野37,061haが対象です。

・計画区内の山林の内訳は、天然林が38%、人工林が60%、その他2%を占めています。

・水源かん養保安林が保安林全体の98%を占め、下流域の八代市、人吉市及び水俣市等の水がめとして重要な役割を担っているほか、スギ・ヒノキの人工造林が盛んで、木材資源の供給能力も高い地域です。また、九州中央山地国定公園に指定されるなど自然景観に優れた地域も多く、登山や森林レクリエーションなどの保健休養の場として多くの人に利用されています。



<機能類型別面積>

公益的機能の維持増進を旨とする方針の下、重点的に発揮させるべき機能によって次の5つの類型に区分し管理経営を行っています。

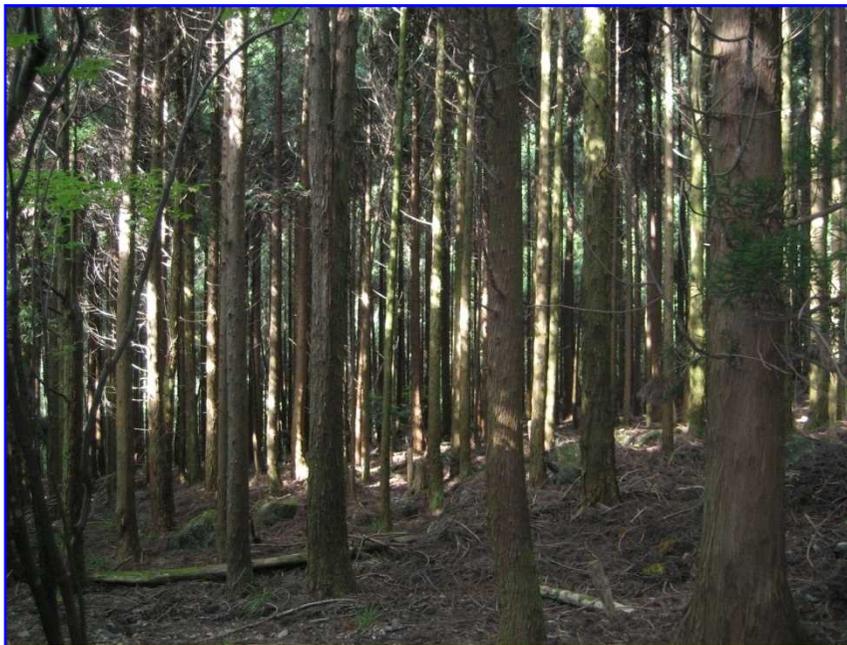
区 分	面積ha	機 能
山地災害防止タイプ	9,780	災害に強い国土基盤を形成する観点から山地災害防止・土壌保全機能を発揮する。
自然維持タイプ	3,297	生態系としての森林の重要性を踏まえ、生物多様性保全機能を発揮する。
森林空間利用タイプ	111	国民に憩いと学びの場を提供し豊かな自然環境や歴史的風致を構成するため保健・レクリエーション機能等を発揮する。
快適環境形成タイプ	5	騒音、粉塵等から地域の快適な生活環境を保全する機能を発揮する。
水源かん養タイプ	23,868	良質な水の安定供給を確保する観点から上記のタイプ以外の全ての国有林で水源かん養機能の維持増進を行う。

(注)官行造林地444haを除く。

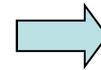
(2) 計画の概要

① 多様で健全な森林整備・保全を推進

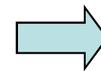
間伐をはじめとした森林整備に積極的かつ着実に取り組むとともに、針広混交林化、複層林化、長伐期化などを通じて、多様で健全な森林の整備・保全を推進します。



現状(人工林)



針広混交林

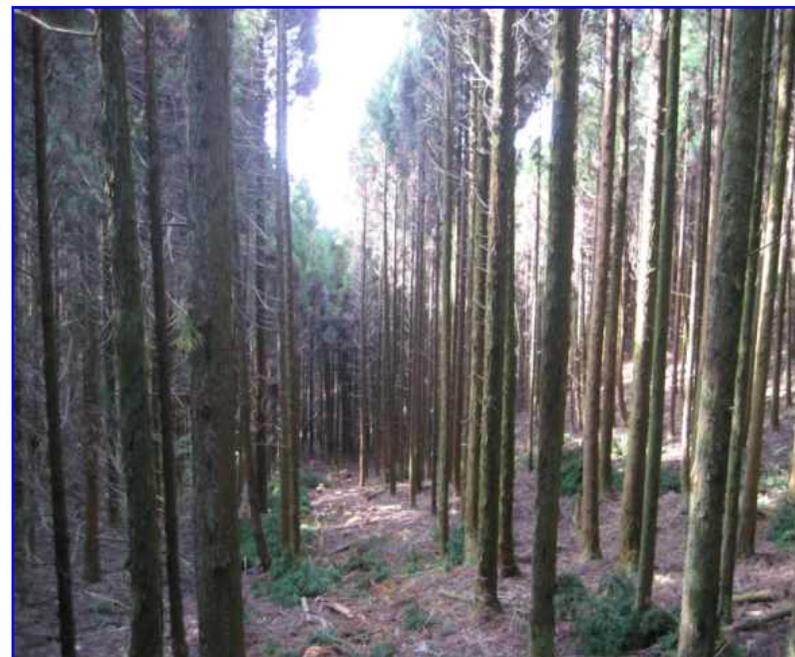
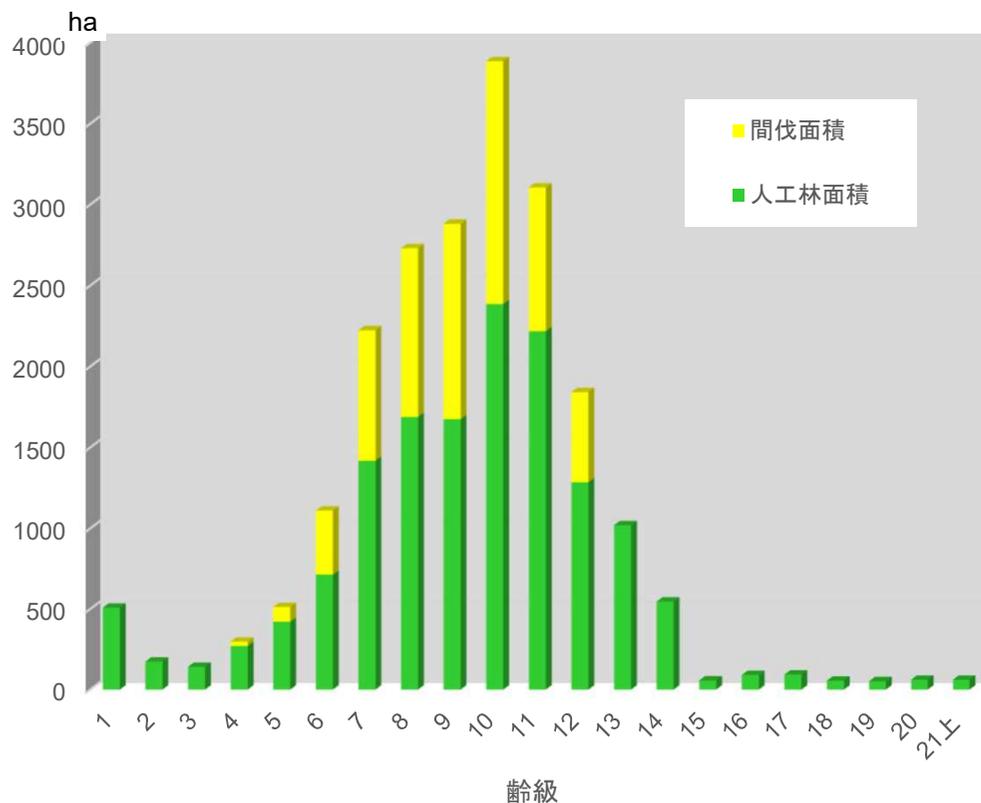


長伐期化した森林

② 間伐を通じた地球温暖化防止の推進

本計画区の人工林の面積は約21,953haで、間伐対象となる16年生から60年生の人工林の面積は約18,591ha（人工林面積の85%）です。

また、現行計画（H30. 4～R5. 3）では間伐を約7,726ha計画しており、地球温暖化防止に寄与する間伐を推進しています。



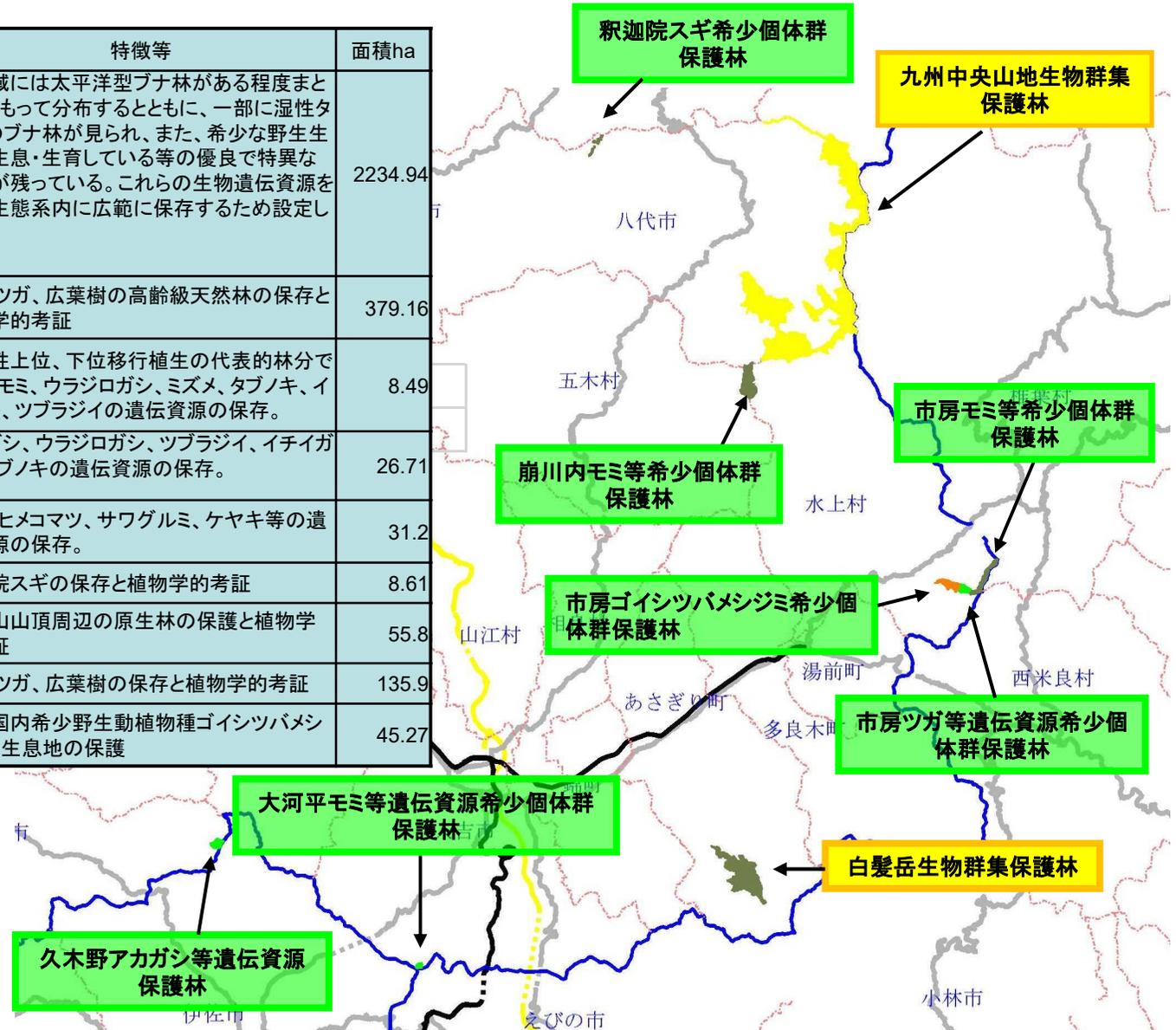
列状間伐を導入した人工林

注：1年齢級は1～5年生を表します。

③ 保護林の適切な保全・管理

本計画区には貴重な自然環境としての天然林等が多く存在しており、保護林を設定し適切に保護・保存を図っています。

種類	名称	特徴等	面積ha
生物群集保護林	九州中央山地	当地域には太平洋型ブナ林がある程度まとまりをもって分布するとともに、一部に湿性タイプのブナ林が見られ、また、希少な野生生物が生息・生育している等の優良で特異な自然が残っている。これらの生物遺伝資源を自然生態系内に広範に保存するため設定した。	2234.94
	白髪岳	モミ、ツガ、広葉樹の高齢級天然林の保存と植物学的考証	379.16
希少個体群保護林	大河平モミ等遺伝資源	暖帯性上位、下移行植生の代表的林分であり、モミ、ウラジロガシ、ミズメ、タブノキ、イスノキ、ツブラジイの遺伝資源の保存。	8.49
	久木野アカガシ等遺伝資源	アカガシ、ウラジロガシ、ツブラジイ、イチイガシ、タブノキの遺伝資源の保存。	26.71
	市房ツガ等遺伝資源	ツガ、ヒメコマツ、サワグルミ、ケヤキ等の遺伝資源の保存。	31.2
	釈迦院スギ	釈迦院スギの保存と植物学的考証	8.61
	市房モミ等	市房山山頂周辺の原生林の保護と植物学的考証	55.8
	崩川内モミ等	モミ、ツガ、広葉樹の保存と植物学的考証	135.9
	市房ゴイシツバメシジミ	指定国内希少野生動物植物種ゴイシツバメシジミの生息地の保護	45.27



④ 国民の森林としての管理経営の推進

森林環境教育の場として国有林野を活用し、自然観察会を開催しています。

一般の方々を公募し、自然観察会を実施しています。



本計画内の国有林各地に出掛け、国民の方々が樹木や草花を現地で観察するなど、自然とふれあってもらう活動を定期的に行っています。

希少野生動植物の保護の一環として、ゴイシツバメシジミ観察会を実施しています。



「国の天然記念物」であり、「国内希少野生動植物種」にも指定されているゴイシツバメシジミの保護を図るため、地元の小学生や自治体などを招き、種の保存についての学習を行う観察会を開催しています。

⑤ 野生鳥獣被害対策

シカによる森林被害が多く見受けられることから、地域と連携したシカ被害対策の取組を実施しています。



シカの食害からスギ・ヒノキ造林地や希少な植物を保護するため獣害防止ネットなどを設置しています。



国有林及び周辺の農林業被害、生態系被害の防止を促進するため、地元市町村、猟友会等とシカ被害対策協定を締結し、連携したシカ捕獲を実施しています。

⑥ 流域管理システムの推進

ア 国有林と民有林の連携を強化し、より効率的な森林整備を推進するとともに、林業技術向上のため現地検討会を実施しています。



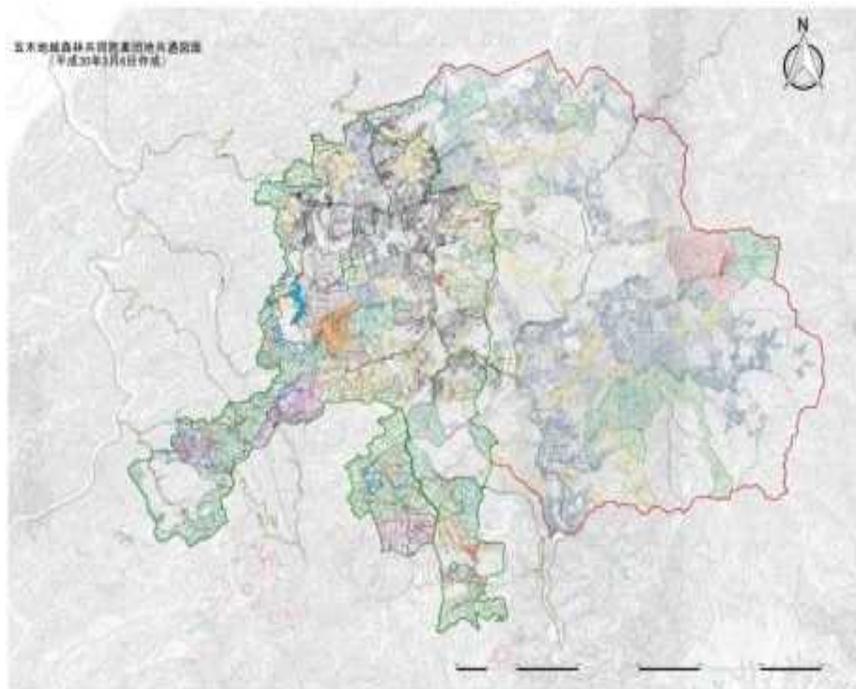
多目的造林機械実演会



路網作設検討会

国有林内において、林業事業者、県・市町村の林務担当者等も参加して、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムに関する現地検討会を実施し、民有林への技術の普及に取り組んでいます。

イ 地域林業の成長産業化に向けて民有林と協調した効率的な森林整備を推進しています。



五木地域森林整備(共通図面)



ワーキング会議

民有林と国有林が隣接する熊本県の五木地域とその周辺の森林に「森林共同施業団地」を設定し、協定者や地元関係者が連携して路網整備等を推進し効率的な森林整備に取り組んでいます。

⑦ 低コスト林業の実現と木材の安定供給

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林の整備を行うため、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



低コストモデル実証団地設定による森林整備の低コスト化を推進しています。



林業生産コストの削減を図るため、森林作業道の整備を推進しています。

⑧ 安全・安心の確保に向けた治山対策の展開

地域の安全・安心の確保に向けた効果的な治山対策に取り組んでいます。



鋼製自在枠谷止工

荒廃した溪流において環境も配慮した鋼製による谷止工を設置しています。



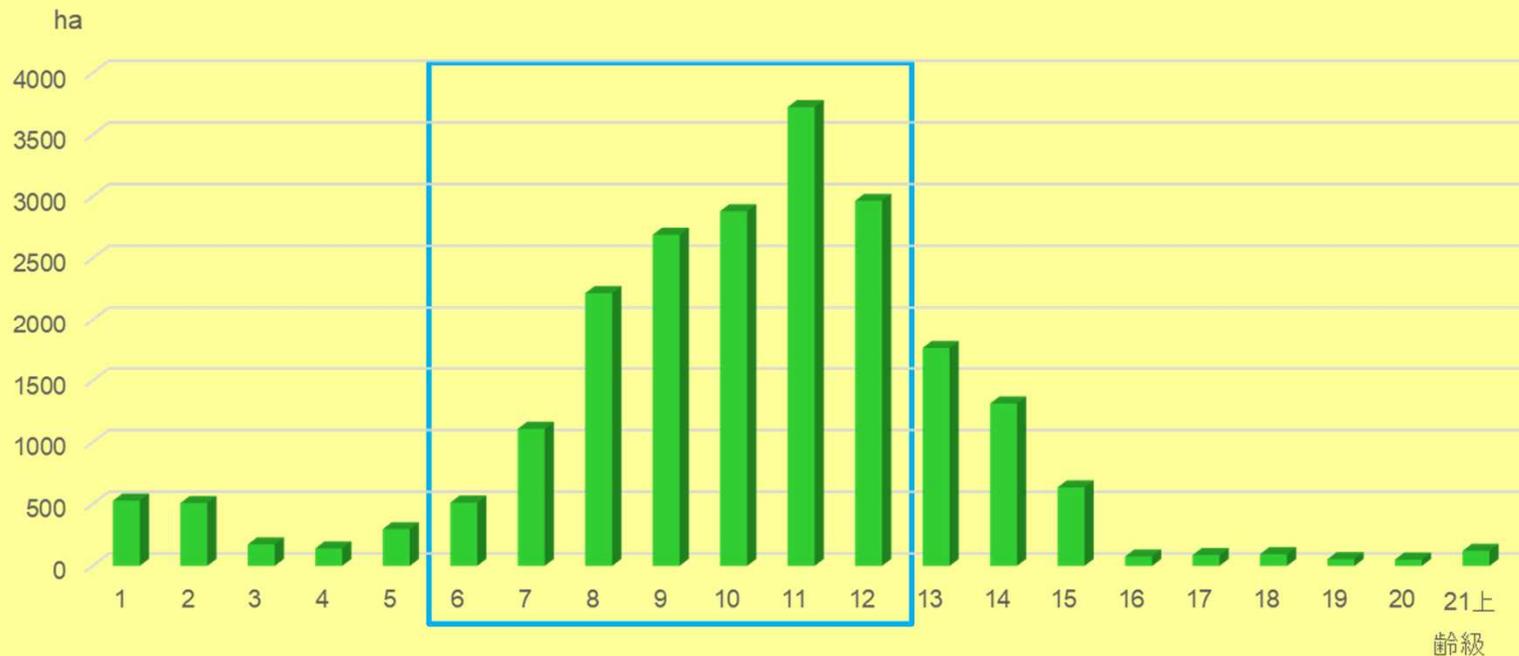
柔構造バリア

令和2年7月豪雨により荒廃した溪流において、緊急的な土石流対策として柔構造バリアによる対策工事を実施しています。

2 次期計画の検討方向

(1) 管理経営上の課題

- ・本計画区の国有林野が有する水源かん養機能や生物多様性保全機能等の公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- ・次期計画においても間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は、人工林面積全体の75%と現行計画と同程度であり、健全な森林づくりのほか森林吸収源対策の上からも間伐を推進する必要があります。



- ・地域の関係者との連携により、地域林業の成長産業化に向けた具体的な取組を推進する必要があります。
- ・主伐・再造林を行うとともに造林コストの縮減に取り組む必要があります。
- ・森林病害虫等に強い多様な森林の造成を立地条件に応じ推進していく必要があります。
- ・シカによる森林被害が多い状況を踏まえ、被害防止と対策を実施する必要があります。
- ・本計画区には各種保護林を設定しており、これらの国有林野を適切に管理していく必要があります。
- ・本計画区には、絶滅のおそれのあるゴイシツバメシジミが生息することから、生息環境の保全に留意しつつ、国有林野を適切に管理していく必要があります。
- ・国民参加による森林づくりに関する問い合わせや相談に適切に対応していく必要があります。
- ・国産材の安定供給を実現するため、生産システムのコスト縮減と生産性向上を進める必要があります。
- ・エネルギー原料としての利用等新たなニーズに応えるため、これまで利用度が低かった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- ・国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策に取り組む必要があります。

(2) 計画内容

- ・公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備を推進する方向です。
- ・貴重な植物種の保護を目的とする保護林及び自然の観察や森林浴などの利用を目的とする森林については、現状を維持する方向です。
- ・森林共同施業団地の協定者や地域関係者と連携しつつ、施業の集約化・路網連結等の取組を推進する方向です。
- ・中苗やエリートツリー植栽等、造林の低コスト化に取り組む方向です。
- ・絶滅のおそれのあるゴイシツバメシジミが生息する地域は、生物多様性の保全を推進する観点から、当該箇所については生息や繁殖の環境に十分に配慮した森林施業、森林の保護・管理に努める方向です。
- ・社会貢献活動として森林づくりに参加・協力したいとする企業等の要請に応えるため、「ふれあいの森」制度を活用して、国民参加による森林づくりを推進する方向です。
- ・丈夫で壊れにくい路網整備を加速化しつつ、低コストで効率的な作業システムの構築に引き続き取り組みつつ、原木の安定供給体制の構築のため、利用度の低い林地残材を含む国産材のシステム販売に努める方向です。
- ・民有林と連携して効果的な治山事業の実施に取り組むとともに、地域住民と協働して災害を減らす対策を進める方向です。
- ・国有林の有するフィールド・技術力を活用した林業事業者、森林・林業技術者の育成に取り組む方向です。